

深くうなづきました。同席した宮本徹議員から「いや、これは損失補填対策。与野党とも要求してきた。政権が損失補填は認めない方針なので、理屈に合わない利用者負担が出てきた」と説明があり、なぜこんなことになったかようやくわかりました。おかしいことは筋道を通して訴えていく大切さを知りました。

終了後、初めての議員会館食堂で久しぶりの外食。緊張感から解放され、貴重な体験と美味しさで満たされ、改めて職場えんの面白さをかみしめた一日です。

(ケアプランえん／川村はるみ)

◆小規模多機能ホームまどか◆

～まどかスタッフ、コロナの日々～

私は現在 3 人の育児の真最中です。3 ヶ月前までの生活といえば、毎朝小学生を送り出し、保育園に送り届け、職場に向かい、慌ただしく過ごしていました。

2 月になり新型コロナウイルスが少しずつ騒がれ始めましたが、全く現実味がありませんでした。

3 月に入り突然小学校が臨時休校。けれども、うちの子ども達は学童クラブ・保育園に通い、あまり変わらない日常を過ごしていました。変わったことといえば、朝のお弁当作り。給食のありがたみを実感する毎日でした。

4 月 7 日『緊急事態宣言』を受け保育園・学童クラブも自粛協力。飲食業の旦那もお店が休みとなりました。私が働いている間は、旦那が子ども達の育児をしてくれていましたが、気分転換で外に出ることもあまりできず、家中にストレスが充満しているのをヒシヒシと感じていました。

『緊急事態宣言』が延長になると本格的に保育園も学童も休園。旦那は少しずつ出勤が増え始め、ありがたい反面、私が休まざるをえなくなっていました。日々の過ごし方といえば、テレビゲームや 1000 ピースのパズル、たまに人のいないのを見計って近所の公園に遊びに行ったり…。そんな毎日を送っているとだんだん不安を感じ始めます。

まさか学校始まってないよね…？

保育園行ってないのうちだけじゃないよね…？

胸の中がざわつき始めていました。

そんな時、まどかから夕方 1 本の電話がありました。

「お子ちゃま連れて遊びに来ればー！って思って電話したー！！」と元気なスタッフの声が、たった 5 分で私の心を救ってくれました。実際には行けなかったけれど、1 日も早くふつうに子どもを連れてまどかに行ける日常が戻ってくることを願いながら、今できることを精一杯やり続けようと思います。

(まどかスタッフ／増子仁美)

